第３章　計画の構成

１　計画の全体像

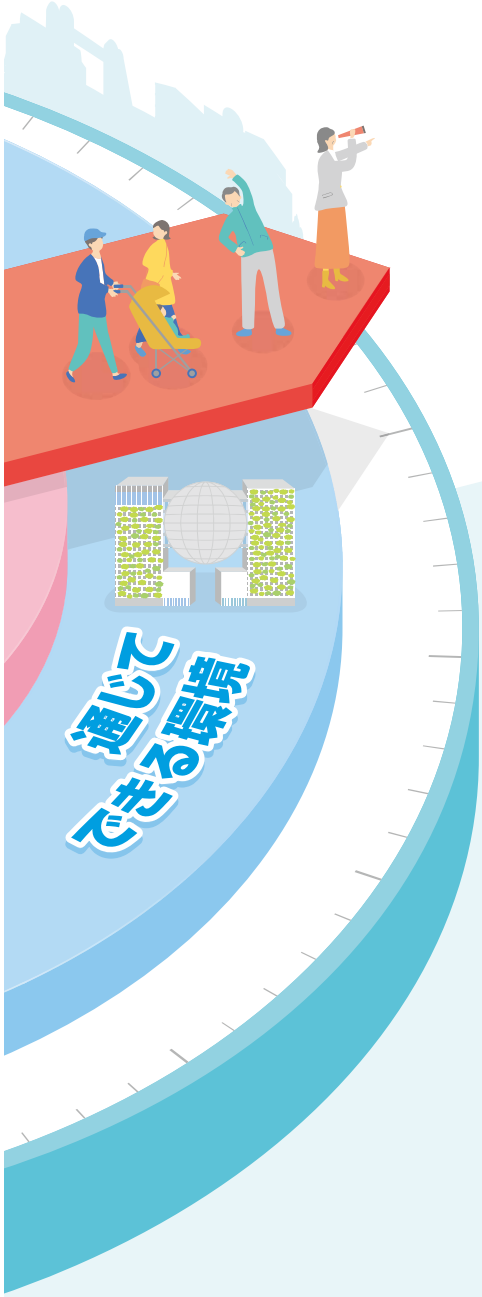
第４期名古屋市教育振興基本計画

コンパスぷらん

このイラストは、「ナゴヤ学びのコンパス」の考え方に基づき、
生涯を通じて学び続ける姿と５つの基本的方向が
その学びを支える様子を描いています。

ナゴヤ 学びのコンパス

「ナゴヤ学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。



実現したい市民の姿

自由な市民として互いを認め合い
共に社会を創造する

目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の中で
自律して学び続ける

基本的方向

Ⅰ 子どもが自律して学び続け、持続可能な社会の創り手となるよう、子ども中心の学びを進めます

Ⅱ 子ども一人一人が幸福や生きがいを感じられるよう、誰一人取り残すことなく、学校・家庭・地域などが連携して子どもの育ちを支えます

Ⅲ 子どもが安心して安全に学べるよう、良好な教育環境を整備します

Ⅳ 市民一人一人が豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じて学び、活躍できる環境を整えるとともに、名古屋の魅力を創造・発信します

Ⅴ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進します

２　「ナゴヤ学びのコンパス」（概要）

（１）策定について

①趣旨

本市の子どもたちが、今後ますます激しくなる社会の変化を前向きに受け止め、たくましくしなやかに変化を乗り越え、よりよく自らの人生をきり拓いていくためには、自律して学び続ける人に成長していくことが欠かせません。そのためには、大人が子どもの学びに伴走し、子ども中心の学びを進めていくことが大切です。

こうした方向性に向けて、本市の学校園全ての教職員及び子どもたちに関わる全ての大人が共通認識をもって教育を進めることができるよう、本市の目指す子ども中心の学びの考えを明確にする、学びの方針を示す必要があると考え、「ナゴヤ学びのコンパス」を策定することとしました。

②学びの構造転換が求められる背景

一人一人が自分らしく幸せに生きながら、未来を共につくっていくことが求められる時代において、現在の教育が新たな時代観を踏まえた教育になっているか、問い直すことが必要です。「みんなで同じことを、同じペース、やり方で、同質性の高い学年学級制の中で、決められた問いと答えを勉強する」ということを前提とした教育のあり方も多様化する社会のあり方に合わせて転換することが求められています。

③策定にあたっての基本的な考え方

これから求められる学びを意識しながら、子どもたちや市民、教職員から聞き取った声を反映させた、本市で大切にしたい学びをまとめました。その考えを幼児期から青年期まで一貫して大切にしながら、子どもたちが、大人になっても自律して学び続けることを目指していきます。

④位置づけ

「ナゴヤ学びのコンパス」は、学習指導要領や中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」等を踏まえながら、これまでの本市の取り組みを生かした学びの方針として取りまとめました。

また、ナゴヤ子ども応援大綱で掲げている「一人ひとりの人生の基盤としての理念～あなたもわたしも『いま、ここ』にいたいと思える場をつくる～を踏まえて作成しています。

（２）実現したい市民の姿

＜自由な市民として互いを認め合い、共に社会を創造する＞

公教育の目的は、全ての人が「自由」に生き、他者の「自由」も尊重するという「自由の相互承認」の感度を育み、共に社会を創造していくことであり、その目的を達成することが、全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくことにつながると考えます。

（3）目指したい子どもの姿

＜ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける＞

人は一人一人違うことから、それぞれに合った学び方があります。そのため、子どもたちが、「できるだけ自分に合った進度や学習方法、学習内容を選んだり決めたりできる」という意味において学びを個別に最適化することが大切で、上記のような姿が見られるようにしていきます。

また、個別最適な学びを実現するにあたって、子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」を本市では大切にします。

（4）重視したい学びの姿

＜自分に合ったペースや方法で学ぶ／多様な人と学び合う／夢中で探究する＞

「ナゴヤ学びのコンパス」で目指している「子ども中心の学び」とは、子どもたちが自分の興味・関心、能力や特性などに合わせて学習方法や学習内容を個別に最適化する学びのことで、子どもたちが自分らしく、楽しく学ぶことができるように教師が子どもの学びに伴走することが求められます。

上記に示した「重視したい学びの姿」は、「子ども中心の学び」を実現するために、「指導の個別化」「学習の個性化」を意識して、本市で大切にしたい姿を三つに整理したものです。

（5）どの学校園でも大人が大切にしたいこと

＜子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する＞

「ナゴヤ学びのコンパス」の目指す教育を実現するためには、教育に関わる大人が大切にしたいことを理解し、共有することが必要です。これまでの子ども観を問い直し、上記のような子ども観を大切にしたいと考えています。

全ての子どもは学ぼうとしているし、学ぶ力をもっています。適切な人や環境と出合うことで、自ら進んで環境に関わり、その相互作用の中で自ら学びを進め、深めていく存在なのです。そのように理解したうえで、子どもの学びに伴走することが大切です。

（6）「ナゴヤ学びのコンパス」の目指す教育の実現に向けて

令和 6（2024）年度からは、「ナゴヤ学びのコンパス」の目指す「子ども中心の学び」の実現に向けて、各学校園での教職員の対話のもとに学校努力点（年度重点目標）が設定され、その目標に基づいた教育活動が行われていきます。

また、中学校ブロック等での教職員の対話の推進を図り、「ナゴヤ学びのコンパス」の考えについて理解を深めながら各学校園の実践につなげるとともに、教育委員会は学習会や研修などの機会を通じて、各学校園に伴走して支援していきます。

ナゴヤ 学びのコンパス

全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくために、
「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで
一貫して大切にします。

名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿

実現したい

自由な市
互いを認
共に社会を

目指したい

ゆるやかな
中で自
学び続

重視したい

自分に合った
ペースや
方法で学ぶ

多様な
学び

どの学校園でも大人が大切にしたいこと

全ての子どもは、適切な環境とそれを支える仲間・大人に出会うことで、自ら学びを進め、深めていく存在であるという意味で、**「有能な学び手」**であると言えます。
私たち大人は、子どもを「有能な学び手」であると信じ、尊重・対話・チャレンジを大切にしながら、子どもの学びに伴走していきます。

どの学校
大人が大切に

子どもは有能な学び
子どもの学び

子ども
一人一人の
思いや願いを
尊重する

子ど
対話

い市民の姿

民として
認め合い、
を創造する

子どもの姿

な協働性の
律して
続ける

い学びの姿

な人と
合う

夢中で
探究する

校園でも
にしたいこと

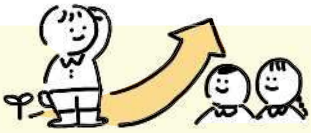
び手であると理解し、
びに伴走する

もと
する

子どもの
自分なりの
チャレンジを
大事にする

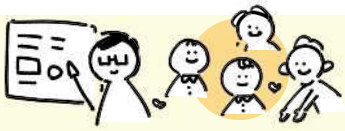
実現したい市民の姿

人は誰もが「自由」に、つまり、自分らしく生きたいように生きたいと願っています。ここで掲げる**「自由な市民」**とは、**自分も他者も全ての人の自由を尊重する市民**のことを指しています。
私たちは、未来を生きる子どもたちが、こうした「自由な市民」として社会の創り手に成長していくことが、本市の学校園の教育を通じて目指すべき姿であると考えています。



目指したい子どもの姿

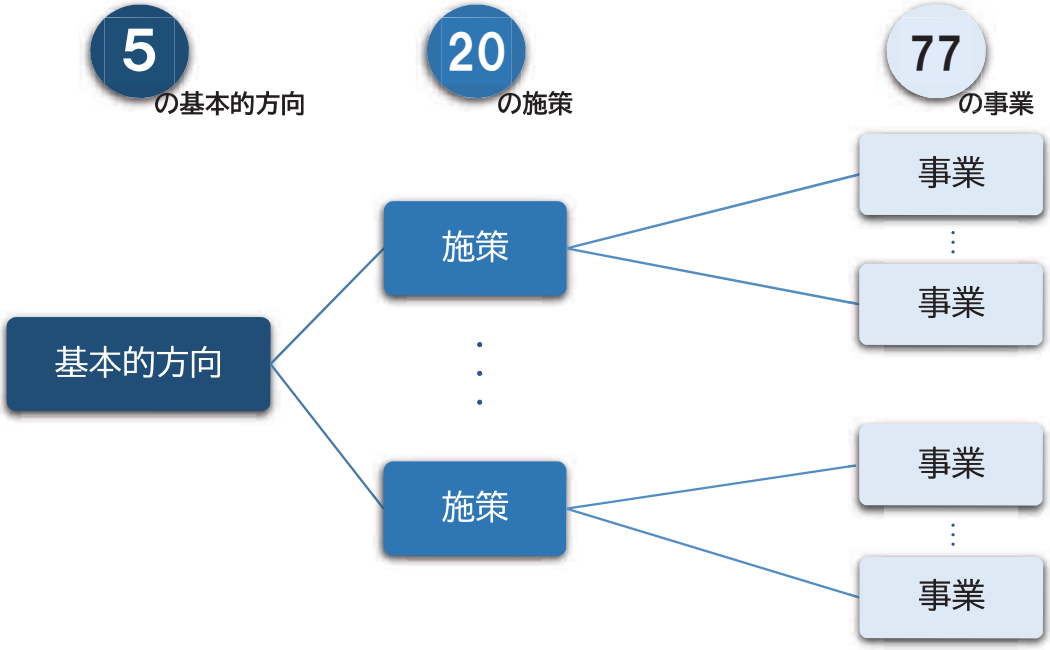
子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」のもとで一人一人が自律して学び続けている姿が、目指したい子どもの姿です。



重視したい学びの姿

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の考え方に基づく名古屋市の実践を踏まえて、大切にしたい三つの要素を取り上げました。
これまでも、これからも大切にしたい姿です。

3　計画の体系



本計画では、５つの「基本的方向」とその実現を図るための20の「施策」により具体的かつ体系的な方策を定めるとともに、その「施策」を推進するうえで必要な手立てとなる77の「事業」を取りまとめ、取り組むこととします。

4　計画の進行管理

本計画の推進にあたっては、PDCAサイクルによる進行管理を行い、関係する部局等と連携しながら、基本的方向の実現に向けた取り組みを着実に推進します。

また、施策の進ちょく状況を把握するため、施策ごとに成果指標とその目標値を設定します。

各年度の取り組み状況の評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づく、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」といいます。）により実施します。

点検・評価については、学識経験者により構成される意見聴取会議において外部の視点から意見を聴取するとともに、教育委員に対して各施策及び事業の実施状況を報告し、事業の見直しや新たな課題への対応などについて協議します。加えて、子どもたちからも直接意見を聴く機会を設けます。

それらの中で出された意見などをその後の施策に反映することで、より実効性のあるPDCAサイクルを確立していきます。

また、点検・評価の結果は、報告書として取りまとめ、議会へ提出し公表します。